

中村一成氏講演会

「ウトロからレイシズムを問う」

日時：2022年11月20日（日）14:00～16:00（13:30開場）

場所：名古屋市博物館講堂（地下鉄「桜山」駅4番出口から徒歩5分）

参加費：一般900円・学生300円



ジャーナリスト。1969年、大阪府寝屋川市生まれ。新聞記者を経て2011年からフリー。在日朝鮮人や移住者、難民を取り巻く問題や、死刑が主なテーマ。映画評の執筆も続けている。著書に『ルポ 京都朝鮮学校襲撃事件——〈ヘイトクライム〉に抗して』（岩波書店、2014年）、『ルポ 思想としての朝鮮籍』（岩波書店、2017年）、『映画でみる移民／難民／レイシズム』（影書房、2019年）、『ウトロ ここで生き、ここで死ぬ』（三一書房、2022年）など。

ウトロは京都府宇治市にある在日朝鮮人の集住地区であり、1940年代から「京都飛行場建設」に集められた朝鮮人たちの飯場跡地である。敗戦後、様々な理由でウトロに残った朝鮮人たちは、劣悪な住環境、そしてひどい差別に苦しみながらも生き抜いてきた。1980年代後半には土地の所有権問題がおき、住民たちは「強制退去」を強いられた。裁判を強いられたが、敗訴。司法により住民たちは「不法占拠」とされてしまった。在日朝鮮人住民たちは、住環境改善に共闘した日本人と闘いを続ける。そして2000年代からは韓国市民が、そして、さらには韓国政府が支援表明。ウトロの土地の一部が買い取られたことにより、住民たちの強制退去の危機はなくなった。このような歴史を伝えるために2022年4月にウトロ平和祈念館が開設された。本講演会では、このようなウトロの現場に立ち続け、住民たちの声を聞き続け苦しみや悲しみ、そして喜びをともにしてきた中村一成氏を講師に呼び、ウトロの歴史と今を学ぶ機会としたい。さらには、2021年8月末に起きたウトロでの放火事件から現在の日本社会のヘイトクライムの現状もお話いただく。「絶望」に見える日本社会の中で、それでもウトロが生み出した連帯の力もお話していただき、私たちの次の一歩につなげていきたい。

問い合わせ先：
31demo1919@gmail.com

ウトロ平和祈念館 HP にはこちらからアクセス
(<https://www.utoro.jp/>)



主催：韓国併合100年東海行動・民族教育の未来をともにつくるネットワーク愛知とりの会